

「油流出ワークショップ」の開催について

～ ナホトカ号事故から 20 年～油濁事故対応における進歩と新たな課題 ～

2017 年 1 月

石油連盟は、国内外から油濁対応に関わる専門家を招き、国際シンポジウムとワークショップを隔年で開催しておりますが、今年度は下記の通り「第 5 回 油流出ワークショップ（ナホトカ号事故から 20 年～油濁事故対応における進歩と新たな課題）」を開催いたします。

記

1. 日時：2017 年 2 月 2 日（木）9:40～17:00 頃
2. 場所：経団連会館 2 階 経団連ホール
3. 講師：

【基調講演】

リチャード・ジョンソン氏（ITOPF（国際タンカー船主汚染防止連盟）

テクニカル・ディレクター）

【講演予定者（順不同）】

ブライアン・サリバン氏（IPIECA（国際石油産業環境保全連盟）事務局長）

ダレン・ウォーターマン氏（OSRL (Oil Spill Response Limited) アジア太平洋ディレクター）

吉田 勝昭氏（海上保安庁 警備救難部・環境防災課 防災対策官）

後藤 真太郎氏（立正大学 地球環境科学部・環境システム学科 教授） 他

4. 出席者：

国内外油濁対応関係者、経済産業省、海上保安庁など 約 180 名

5. 開催目的・内容：

- (1) 1997 年 1 月 2 日に日本海において発生したナホトカ号事故から 20 年を数える 2017 年、事故の記憶を新たにし、油濁事故への備えや対応体制の整備に関するこれまでの進歩と今後の課題について議論を行う。
- (2) 事故当時の関係組織や、過去 20 年間でナホトカ号事故や類似の事例から得た教訓に基づいて対応体制の整備を進めてきた各組織による講演を予定している。
- (3) 講演終了後の総合質疑において、ワークショップで提起された問題について聴講者の理解を深め、疑問を解決する機会の時間を設ける。

以上